



第47回

東海地区小児糖尿病サマーキャンプ 「AMIGOキャンプ」開催報告



夏の恒例となりました東海地区小児糖尿病サマーキャンプも今年で回を重ねること47回となりました。本キャンプは、多感な年齢にある小中学生の1型糖尿病患者を対象としています。食事療法やインスリン注射手技などを習得するのみならず、集団生活を通じて互いに交流を深め、病気で失いかけていた自信を取り戻す機会を提供するなど大きな成果をあげてきました。

1型糖尿病は、医学が進歩した現代においても、いまだ『不治の病』です。血糖値を下げるために必要なインスリンを産生できないため、自己注射によるインスリン投与を生涯にわたり行う必要があります。生活習慣病である成人の糖尿病、すなわち2型糖尿病と異なり、日本における小児1型糖尿病の発症率は年間10万人に1人程度と稀であり、同じ疾患を患う仲間が身近なところにはいないのが現実です。東海地区の小児糖尿病キャンプは、日本中でも初期に開始され、毎年約40名の1型糖尿病児が集まり、日ごろでは経験できない疾患への悩みを話し合う貴重な時間を共有しています。1型糖尿病の治療目標のひとつとして『何事にも制限を受けないこと』と考えています。しかし実際には、学校から制限を受けたり、様々なイベントを自制される方も少なくありません。そうした1型糖尿病患者に対して、医療スタッフがいる中だからこそ、『はじめの一歩』を踏み出すことのできるようにキャンプ内で様々な企画を行ってきました。

過去2年間、残念ながら新型コロナウイルス感染症のため、キャンプを開催することができませんでした。今年も感染者は高いレベルで推移する状況が続いており、開催すべきかどうか大変悩みました。しかし、感



染流行は今後も数年間あるいは更に継続する可能性があります。そのような状況下において「困難であるから行わない」ではなく、「困難ではあるけれども、どのような工夫をすれば行うことができるのか」を念頭において、運営スタッフで何度も検討を重ねました。参加者全員にワクチン接種をお願いし、キャンプ前から開催中にかけての健康観察や感染予防対策に十分に気を付けることに加えて、これまでの4泊5日を2泊3日に短縮して2回行うことで、同時期に参加するキャンパー人数を少なくしつつも、できるだけ多くのキャンパーが参加できるようにいたしました。食事の際の感染リスクを極力抑えるために、十分な距離をとった黙食も徹底しました。

その結果、感染者発生はゼロで、無事に全日程を終えることができました。例年よりも小規模でコンパクトな内容でしたが、こどもたちの笑顔は変わりません。本当に実施してよかったと感じています。

最後になりましたが、本キャンプに参加いただきましたスタッフの皆様、並びに快くスタッフの派遣をご許可いただいた各医療機関、大学、企業の皆様に心より感謝申し上げます。
(副院長 菅 秀)



やまばとギャラリー 情報コーナー information



秋といえば食欲の秋！食べ物が一層美味しい季節がやってきましたね。ということで、今月の作品は「さつまいも」です。

患者さんと一緒に絵の具で色を塗ったり、新聞紙をぐしゃぐしゃ丸めたりして一生懸命作りました。是非やまばとギャラリーへ足を運んで秋を感じてくださいね。見ているだけでなんだかお腹が空いてきちゃうかも……？ 次回の展示作品もお楽しみに！
(児童指導員 森 日奈子)